

令和2年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

海光る町学園 佐世保市立小佐々中学校

所在地 佐世保市小佐々町西川内132番地

校長 田雑 健

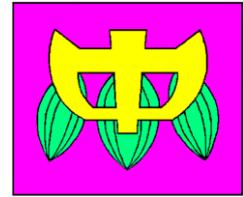
生徒数 178名（1年生61名、2年生55名、3年生62名）

〈校訓〉【学校教育目標】

英知 - 自ら進んで学ぶ小佐々中の生徒

信愛 - 心豊かな小佐々中の生徒

活力 - 健康でたくましい小佐々中の生徒



〈令和2年度の重点事項〉

学力向上・小中連携・地域人材の活用

学力向上プラン 「わかる・できる」楽しさを味わわせる

☆校内研修と連動した取組☆

○授業改善による教師の指導力向上 ○生徒の学習習慣の確立・学力向上

校内研究テーマの実践検証

今年度研究テーマ

コミュニティ・スクールの特性を生かした学び場の工夫

(1) 小佐々中学びのスタンダード（学習規律・授業の構え）の徹底

(2) 提案授業による検証

① 研究授業（8回） 現職教育・研修（13回）

② 地域人材を活用した授業

○ふるさと歴史発見学習

第1学年が、地域の郷土史家の方から、小佐々地区の歴史について学んだ。ふるさと「小佐々」についての話の後、「小佐々郷土館」を見学し、多くの展示物から歴史や産業、文化などについて知ることができた。学んだことをもとに、「小佐々かるた」をつくり発表した。



○職業講話

第2学年が、地元を中心に活躍なさっている方々を招き職業講話を行った。今年度は、感染症対策として職場体験学習に変わり実施した。仕事の内容や、やりがいなどについて実際に話を聴くことにより、自分の将来についての考えを深め、職業について学ぶ機会となった。



○地域伝統文化学習

第3学年が、『小佐々の達人に学ぶ』をテーマに、「かかしづくり」「日本舞踊」「小佐々の昔話」「小佐々をPR」の4コースに分かれて取り組んだ。例年であれば、地域の方々から直接、達人の技を伝授していただくところだが、感染症拡大防止の観点から、職員が講師の方々からご教示いただいたことをもとに取り組んだ。10月には、その成果としての発表会を行った。



③ 小学校への乗り入れ授業

英語科と数学科の教師が、小佐々小・楠栖の両小学校に定期的な乗り入れ授業を行った。小学校の教師と連携し、きめの細かい指導と深い学びの実践を目指した。専門的な知見と中学校での学習とつながりのある授業に、児童は興味をもって臨んだ。

(3) 学習習慣の確立

① 小中9年間で意識した取組

コミュニティ・スクールとして、2小・1中の教師で統一した指導ができるようにルールがつけられている。『海光る町学園 9年間の学びと育ちのスタンダード』には、「学習準備」「家庭学習」「読書」「あいさつ」「返事」「生活の規律・判断」の各項目を、発達段階に応じて分かりやすく明示している。年度初めに各学級で生徒に配付・説明し、各家庭に渡している。学びとともに一人一人の育ちも目指している。

海光る町学園 9年間の学びと育ちのスタンダード



② 「授業の心得」「学習のきまり」

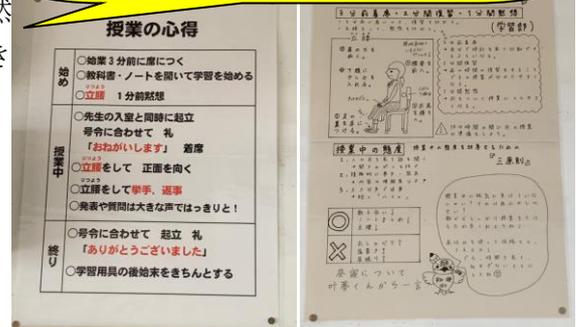
授業に真剣に臨むために、始業・終業の礼法を大切にしている。学習部が主となり毎時間力を入れて取り組んでいる。また、始業前には、前時の復習と黙想を行うことで、落ち着いて授業を受けることができる。4月には「授業の心得」と「学習のきまり」を確認し、1年間の授業への意識付けを行っている。

「授業の心得」「学習のきまり」

- ・始業、終業時のあいさつ・礼法
- ・学習の構えづくり

③ 生活ノート（やりとり帳）の活用

一日の振り返りや家庭学習の記録を毎日行うことで、生徒自身が生活・学習習慣を見直すことができる。担任との信頼関係構築と課題の早期発見につなげている。



小佐々っ子プラン

地域の教育力・財産を生かして

小佐々で子どもを育てる

☆地域人材を活用した取組

- 地域の教材力を活用
- 地域の人材力を活用
- 地域のネットワークを活用

(1) 小佐々町の教材力を生かした取組

○ 海洋体験

小佐々地区の宝である自然のすばらしさを再認識することで、郷土への誇りと健康でたくましい小佐々中の生徒の育成を目指している。今年度は、3年生が各学級ごと時間を設けカヌー実習を行った。



(2) 小佐々地区のネットワークを生かした取組

① 地域未来塾

今年度から、未来を担う子供たちの豊かな学びや成長を支えるために、学校・家庭・地域がパートナーとして連携しながら放課後学習を支援する取組として実施している。佐世保市教育委員会の主催事業で、実施にあたっては佐世保市教育会に調整・運営等を行っていただいている。数学の復習を中心に6名の講師の先生に指導していただいている。「以前習ったところがしっかりと分かるようになった。」と生徒たちも週に1回の学習を楽しみにしている。



② 学園交流 (かがやきっこ会議)

例年2月に学園交流を開催している。次年度入学予定の小学6年生と中学校2年生が、授業交流や給食交流を通して、新入学生に対する不安解消や中学校の理解を促す取組を行い、中1ギャップ解消を目指している。また、各学校のリーダーを育て未来の小佐々を支える人材としての育成も目的としている。今年度は、感染症予防の観点から、生徒会役員と両小学校代表によるリモート形式で行った。小佐々地区の児童・生徒のさらなる向上に向けて様々な意見交換ができた。



③ 学園連絡会

小中の教師が、乗り入れ授業の計画や学習面の取組、生活面の指導などについて確認し、コミュニティ・スクール3校での共通実践を行うための会議の場を設けている。年3回実施し、学習面と生活面に関する小中9年間の連続した成長を支援している。



コミュニティ・スクールとしての取組

地域とともに子どもを育てる
つながりの中で行う教育活動

- (1) 目指す子ども像に向けた取組
 - 『おさかなあいさつ』～ 子ども版・大人版 ～
- (2) 地域の方たちの学校行事への参加
 - 唱歌を歌う会 他
- (3) 地域人材・教材を活用した取組
 - 教科・総合的な学習・各行事 等々
- (4) 地域行事への生徒・教職員の参加



今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々な行事が中止・延期・規模縮小となった。伝統文化学習、親子交流文化活動、面接指導、職場体験学習、郷土学習インタビュー、議場見学、学園交流、地域ボランティア清掃等、多くの取組ができなかったものの、地域の方々からは「生徒が落ち着き、目的をもって行動している様子が見える。」、保護者からは「感染症対策を講じながら行事を実施していただき感謝している。」とのご意見をいただいた。教職員からは「小学校や地域との交流はできなかったものの、子供たちが地域を大切にしている様子をととても感じる。」との感想があった。また、「地域や小中の関わりが少なかったことは残念であるが、今年度を機に活動や連携のあり方を考えなければならぬ。」と次年度以降を見据えた意見もあった。

次年度に向けては、本校の課題である学力向上に向けて力を注いでいく。本校の生徒は、学習面における主体性・積極性・継続性がやや不足しており、期待する学力へと結びついていない。学力向上のためには、日々の学習習慣や生活習慣の確立が不可欠であり、生徒と保護者への認識とともに実践が必要である。妨げとなっている大きな要因として、長時間のメディア使用があげられる。学校での指導とともに、PTAによる啓発を行っているものの改善には至っていない。海光る町学園として定めているメディア使用のルールに注力していきたい。

小佐々中学校の生徒は、豊かな自然と人情味あふれる人々が創り出した素晴らしい文化の中で育まれており、素直で思いやりがあり、穏やかで心優しい生徒が多い。争いごとを好まず相互尊重と協働する姿勢が随所にある。生徒の良さを更に引き出し、コミュニティ・スクールとして、地域と共に育つ学校として、今後も教育活動を推進していく。